

サービス水準評価点数の計算方式

- 最高評価サービス水準値: $S = \lceil 90 \rceil$
- 確保すべきサービス水準値: $A = \lceil 70 \rceil$
(S を「0」とすることも可能 ・ S は A と異なる数値とする)

- ①最高評価サービス水準値: $S \leq$ 提案値の場合
基礎点数 = 配点 $\times$ 100%
- ②確保すべきサービス水準値: $A \leq$ 提案値 $<$ 最高評価サービス水準値: S の場合
基礎点数 = 配点 $\times$ 50% + 配点 $\times$ 50% $\times$ (提案値 $- A$) $\div$ ($S - A$)
- ③提案値 $<$ 確保すべきサービス水準値: A の場合
評価点数 = 配点 $\times$ 0%

⇒ ①②の評価点数 = 基礎点数 $\times$ 根拠係数 (0.0~1.0)

【根拠係数について】

事業実績を鑑みて、提案値の確実性から審査する。以下に目安を記す。

- 係数 1.0 提案値は達成可能である
- 係数 0.8 提案値は達成可能と見込まれる
- 係数 0.5 提案値の達成はどちらともいえない(判断し難い)
- 係数 0.3 提案値の達成は難しい
- 係数 0 提案値は達成不可能である

確保すべきサービス水準値『70』 $\leq$ 「提案値」 $<$ 最高評価サービス水準値『90』の場合

$$\begin{aligned}\text{基礎点数} &= (\lceil 30 \rceil \times 50\%) + (\lceil 30 \rceil \times 50\% \times (\lceil 70 \rceil - \lceil 70 \rceil) \div (\lceil 90 \rceil - \lceil 70 \rceil)) \\ &= (\lceil 30 \rceil \times 50\%) + (\lceil 30 \rceil \times 50\% \times (0 \div 20)) \\ &= (\lceil 30 \rceil \times 50\%) \\ &= 15\end{aligned}$$

$$\text{評価点数} = \text{基礎点数} \lceil 15 \rceil \times \text{根拠係数} \lceil 0.8 \rceil = \underline{12}$$